

第3回総合計画審議会議事録

1 開催日時 平成20年11月13日(木)
午前10時から午後3時

2 場 所 流山市役所4階委員会室

3 出席者(16人) 敬称略

(1) 審議会委員(委員の構成)

浅見 泰司	(学識経験を有する者)
木下 剛	(学識経験を有する者)
内山 久雄	(学識経験を有する者)
久保悌二郎	(学識経験を有する者)
奥田 富子	(教育委員会の委員)
大塚 侃	(農業委員会の委員)
中山 文男	(公共的団体等の職員)
山崎 秀雄	(公共的団体等の職員)
田井慶一郎	(公共的団体等の職員)
新保 國弘	(市民公益活動団体を代表する者)
山口 文代	(市民公益活動団体を代表する者)
大澤 信弘	(公募の市民)
石井 主税	(公募の市民)
島田 直幸	(公募の市民)
村瀬 義夫	(公募の市民)
増岡 信男	(公募の市民)

欠席委員(2人)

加藤 良則	(学識経験を有する者)
海老原新蔵	(公共的団体等の職員)

(2) 出席職員等

流山市長	井崎 義治
案件関係職員	
企画財政部長	染谷 郁

企画財政部次長兼企画政策課長	加藤 正夫
企画政策課長補佐	水代 富雄
企画財政部次長兼財政課長	菅原 治
財政課長補佐	倉井 操
行政改革推進課長	遠藤 幹夫
行政改革推進課係長	佐藤 治昌

6 政策を代表する施策主管部長（午後から出席）

都市整備部長	阿曾 弘
市民生活部長	吉田 康彦
学校教育部長	渡邊 哲也
子ども家庭部長	沼沢 輝義（保健福祉部長の代理で出席）
産業振興部長兼農業委員会事務局長	池田 孝
（企画財政部長）	（染谷 郁）

その他事務局職員（企画政策課）

主査	安井 彰	主査	渋谷俊之	主査	大津真規
主任主事	大塚 健	主任主事	富樫 聡		

策定支援事業者

ランドブレイン株式会社

（3）傍聴（2名）

4 議 題

- （1）後期基本計画の策定について（諮問）
- （2）後期基本計画策定に関する基本方針に即した策定作業の流れについて
- （3）前期基本計画の評価・総括について
- （4）後期基本計画における重点施策等について
- （5）その他（今後の予定について）

5 配付資料

- 資料1 後期基本計画策定作業について
- 資料2 平成20年度施策・個別施策管理シート（抄）
- 資料3 市民意識調査報告書
- 資料4 市民意識調査満足度レーダーチャート

- 資料5 前期基本計画3 6 施策評価・総括表
- 資料6 前期基本計画6 政策評価・総括表
- 資料7 流山市将来人口推計
- 資料8 市民意識調査自由意見
- 資料9 NPOアンケート・NPOと行政との意見交換会報告書
- 参考資料1 重点施策選択シート
- 参考資料2 中学生アンケート
- 参考資料3 後期基本計画成果品のイメージ
- 参考資料4 後期基本計画策定スケジュール

6 議事内容

(浅見会長)

- ・ 本日の審議会、委員18名中14名出席。
(遅れて出席した委員が2名いるため最終的には16名出席)

・ 議題

- 1 後期基本計画の策定について(諮問)
- 2 後期基本計画策定に関する基本方針に即した策定作業の流れについて
- 3 前期基本計画の評価・総括について
- 4 後期基本計画における重点施策等について
- 5 その他

(市長)

- ・ 後期基本計画策定に関する基本方針に基づいて作業を進めている。
- ・ 後期基本計画は、新しい人口予測に基づいて作成する。
- ・ 今回、はじめて財政フレームを計算してそれに基づいて計画をつくる。
- ・ 同時に、市民意識調査で市民満足度を見て、レーダーチャートに分析して、重点施策を考えていく。
- ・ 後期基本計画は、基幹となる計画なので、市民にわかりやすくしたい。
- ・ 現在、自治基本条例を作成しており、3月の議会に提案する予定で、その条例では基本計画を議会の議決事項とすることが入っている。

(市長)

[諮問文]

(水代企画政策課長補佐)

[諮問文補足]

- ・ 策定に当たっての基本方針、前期基本計画の評価や総括、そして重点施策、財政見直しなど、策定プロセスについて、その手法や整理すべき事項等について、皆様からご意見を頂戴したい。一例として、評価・総括の手法の妥当性、市民意見の取り込み方の策定プロセスについてのご意見を頂戴したい。
- ・ 10年の基本計画を社会経済情勢の変化などに的確に対応し、財源の裏づけのある計画とするため、3年、3年、4年の実施計画をつくる。そのため、10年間の財政見直しを策定中で、3年、3年、4年の中で見直すことを検討している。
- ・ 10年間は非常に長く、社会経済情勢が大きく変化することも考えられるため、計画期間中の見直しの考え方について、審議会の皆様のご意見を頂戴し

たい。

- ・策定する基本計画は、計画の章立てや内容のわかりやすさに配慮することが求められている。表現の仕方やスタイルなど、総合的見地からご意見を頂戴したい。
- ・ご意見を頂戴する方法については、付属機関に関する条例によると、必要な調査及び審議を行い、市長に答申し、または建議すること、と定められているので、答申、または建議、意見書という方法で、総合的な観点から文書での整理をお願いしたい。
- ・非常にタイトなスケジュールで、4月から5月頃を目途に最終答申を頂戴したい。その間は、意見書等の形でご意見を頂戴したい。
- ・策定業務支援の委託コンサルタント会社及び担当者2名の紹介。

(増岡委員)

- ・この審議会の開催頻度はどの位か。

(水代企画政策課長補佐)

- ・後期基本計画を議会に提案するのは来年の9月議会を想定、その間にパブリックコメントを行い、その前後に審議会に諮る。12月に次回の第4回目、来年5月末ころまでに合計4回の審議会を開催予定。

(加藤企画政策課長)

[事務局より策定作業の進捗状況説明]

- 資料1 後期基本計画策定作業について
- 資料2 平成20年施策・個別施策管理シート(抄)
- 資料3 市民意識調査報告書
- 資料4 市民意識調査満足度レーダーチャート
- 資料5 前期基本計画36施策評価・総括表
- 資料6 前期基本計画6政策評価・総括表
- 資料7 流山市将来人口推計
- 資料8 市民意識調査自由意見
- 資料9 NPOアンケート・NPOと行政との意見交換会報告書
- 参考資料1 重点施策選択シート
- 参考資料2 中学生アンケート
- 参考資料3 後期基本計画成果品のイメージ

(石井委員)

- ・ 財政フレームを人口の推計から行い、それに基づいて重点施策を選定するという流れになっているが、その財政フレームがどのくらいの精度で出てくるのか、疑問がある。

(加藤企画政策課長)

- ・ 現在、人口推計に基づいて財政フレームの策定作業中、具体的には次回、お示ししたい。
- ・ 12月に、第一次の財政フレームを組み、年明けに、実施事業が出てくるので、二次的な財政フレームは3月を目途に精査したい。
- ・ 10年間の財政を推計するのは困難だが、少なくとも3年先くらいまではしっかり決めたい。

(浅見会長)

- ・ 委員の意見は、3年以後にどこまで約束するのか、財政状況によってここまでと決めて、状況により組み直してはどうかという主旨と思うが、いかがか。

(加藤企画政策課長)

- ・ 今回、実施計画を3年、3年、4年という期に分けて作成するので、財政フレームも3年後、6年後に見直しをする。

(染谷企画財政部長)

- ・ 身の丈にあった計画にするのが、第一義的な目的であり、歳入フレームに合わせた計画にする。
- ・ 10年後の財政フレームや歳入の予測、特に、歳入の中でも一番大きな割合を占める市民税の予測は、現下の経済状況をみても難しいが、基本計画を作成する際には、歳入の見通しはつけなければならない。
- ・ 市民税は、人口推計で、年齢別の人口、及び就業可能な人口が出ているので、そこから推計する。
- ・ 市債、いわゆる地方債は、赤字地方債は発行するつもりはない。この基本計画策定にあたり、一般会計で、市債を増え続けさせない、少しずつでも減らすという原則があり、歳出における元金償還を上回らない程度の発行として推計する。
- ・ 今回の実施計画は3年、3年、4年を想定しており、必要であれば財政見通しについても修正する。

(浅見会長)

- ・身の丈にあった、と言うことは勇気があることであり、市民に理解していただかないといけない。
- ・夢物語的なことは書かず、見通しはこう、少し幅を持たせて最低の場合はこう、うまくいけばこのくらいまで、という書きぶりにするなど考えていただきたい。

(木下委員)

- ・平成10年に実施された人口推計が今回、下方修正するとのことだが、その理由をわかる範囲で教えていただきたい。

(加藤企画政策課長)

- ・今回の人口推計の見直しは、最新の人口推計、あるいはつくばエクスプレス沿線整備の進捗状況をふまえて、平成32年が20万人から1万9千人下方修正して18万1千人となった。
- ・少子化傾向、つくばエクスプレス沿線開発の事業進捗が遅れていることが要因。
- ・開発人口は、事業計画の延伸や保留地処分の遅れ、少子化などによる一世帯当たりの人数の見直し、民有地のビルトアップ率の見直しなど、複合的に検討して下方修正した。
- ・つくばエクスプレス沿線整備の見直しによって、人口のピークも、前回より遅くなった。
- ・全国的に人口減少の続く中、本市は、平成30年頃までゆるやかな人口増が続き、その後、平成34年ごろから人口減少に転じるという推計。

(木下委員)

- ・増える分というのは、つくばエクスプレス沿線の住宅地において増えるという予測なのか。

(加藤企画政策課長)

- ・人口推計の主な増加分は、つくばエクスプレス沿線を要因と考える。

(浅見会長)

- ・前回よりも今回の推計のほうが高い精度と考えて良いか、重要な点である。

(大沢委員)

- ・流山市の人口が15万8千人であるので、意識調査の段階で、それぞれ地域の自治会、町内会の役員は、地域の意見を総括している事例が多いので、その方を把握することを考えてはどうか。
- ・若い人たちの意見を聴取するという一方で、中学生にアンケートを絞った根拠は何か。高校生の意見も、10年先の流山を支えていく重要な人材であると思うがいかがか。

(加藤企画政策課長)

- ・市民意識調査と並行して自治会の意見聴取もあり、実は意識調査を行った。傾向をみると、愛着心があり、地域のことを思っているという結果である。
- ・若者の意見の聴取については、教育委員会と協議をした。中学3年生の社会科でそういう時間があり、内容からみて一番いいのではないかという判断で、市内中学3年生1210人を対象にした。

(浅見会長)

- ・義務教育の最後であるという配慮もあったと思う。

(村瀬委員)

- ・NPOを入れた意図をお聞きしたい。NPOという流行り言葉で入れるべきでは無い。
- ・全体のまとめ方はいいと思うが、心配な点は、この審議会のやる中身が多いこと。都市計画マスタープラン、福祉、そういうエリアまですべて入り込んでいる。
- ・普通、都市計画マスタープランは、非常にわかりやすいが、今回はわかりにくいので、市民からみて、上手にやっていただきたい。最終的には、行政が責任をもって判断し、市民に説明できるようにしておけば良い。

(加藤企画政策課長)

- ・NPOアンケートを行った理由は、NPOや自治会が地域コミュニティの中心で、現在の基本構想の中でも市民参加の協働のまちづくりということで、NPOの果たす役割は大きいものがあること。
- ・生涯学習センターに市民活動センターを設置して、市民活動をされている方の側面的支援を行っている。まちづくりを進めていくための計画なので、一端を担うNPOの方にも、アンケートや意見交換会(10月に2回開催)でご意見を伺った。

(浅見会長)

- ・今の質問に関係して、企業というのも大きいと思うが、その意見を聞くことは考えていないのか。

(加藤企画政策課長)

- ・NPOについては、市内で公益的活動を行っているので、日ごろの活動での課題などを伺った。
- ・今後、現状、課題、方針がまとまった段階で、市内4か所でタウンミーティング、さらに2月に女性タウンミーティングを2か所で開催予定。

(浅見会長)

- ・タウンミーティングには、住民以外で、通勤、通学している人が参加しても良いのか。

(加藤企画政策課長)

- ・市内の学校に通学されている方、市内にお勤めの方も、まちづくりの大きな担い手なので、そういう方を含めてのタウンミーティング。

(浅見会長)

- ・中身が多いというご意見だが、これは全体の計画なので、ある意味では、大所高所から、それぞれの計画の重要度、その判断を我々がしなければいけない。

(島田委員)

- ・市民意識調査は参考になった。自由意見も拝見し、大変興味をもった。調査項目は、過去からの変化をみるために、ずっと同じ項目で行っているのか。

(加藤企画政策課長)

- ・市民意識調査は、時系列でみるために概ね同じ設問で行っている。一部に、入れ替えもある。具体例では、安心安全なまちづくりに関連して消防の救急車の利用など。

(島田委員)

- ・5年、10年経つと、聞きたい項目、不要な項目も出るので、適宜、入れ替えるのは良い。
- ・項目の中で、都市基盤の中に身近な生活道路の整備があり、生活環境の中に

交通安全対策があるが、道路とは自動車道路のことか。自転車や歩行者道路について、市民の考えや満足度が見えない。自由意見欄に、歩行者、障害者、通学者の意見がたくさんあるので、今後の調査では配慮していただきたい。

(加藤企画政策課長)

- ・自由意見から、歩行者専用道路、自転車道路が課題だと思ったので、今後、課題の抽出において、できるだけ反映させていきたい。

(新保委員)

- ・市民やNPOの声は貴重な情報だが、後期基本計画に馴染む、馴染まないがあると思うので、まとめるときに、区分けをしていただきたい。
- ・意見を出した方に、聞くだけでなしのつぶてととられてはならない。この計画には馴染まないが、個別の審議会等で議論するというをはっきり示す。反映したものは、計画のどこに反映されたのかという場所を、個々に言えるようにしていただきたい。

(浅見会長)

- ・自由意見というのは整理しにくいですが、ある意味では意見が出てくる一番重要なところ。可能な範囲で整理していただきたい。

(加藤企画政策課長)

- ・今回、自由意見が結構出ており、庁内組織で十分に議論を重ねて、整理したい。
- ・今後のタウンミーティングやパブリックコメントについても、策定経過を含めて十分に説明して、その段階で取り入れるべき意見には対応していきたい。

(染谷企画財政部長)

- ・自由意見には非常に興味深い内容がある。膨大な量だが、新しい行政を進めていく上で、きっかけや動機となるもの、きらりと光るものについては積極的に取り入れたい。

(浅見会長)

- ・中には積極的なご提案もある。

(新保委員)

- ・利根川水系の河川整備の件では、国交省の関東地方整備局から、1年以上経

っても何も回答が出てこない。行政としての責任ある立場で、返事をするのは難しいと思うが、流山市さんなら出来ると、希望を持っている。

(浅見会長)

- ・なるべく、意見を出された方が無視されたと思われぬようにしたい。

(大沢委員)

- ・全体として、進め方や基本構想については、そう大きな修正を加えることは無くて済みそうだ。
- ・市民に理解を求める部分は限られている。基本計画を進めていく、審議会の細部にわたることが網羅されていて、複雑で膨大なものだが、既存のものばかりだ。
- ・10年、20年先の流山らしいまちづくり、都市計画を考えなくてはならない。知恵を絞り、新しい発想に基づいた、受益者負担等、財政負担の軽い、市民が希望の持てる意義ある新しい事業を、審議会で意見をいただいて、入れてもらいたい。
- ・事務局としては、そういう考えがあったのか、あっても財政的制約で断念したのか、伺いたい。

(加藤企画政策課長)

- ・後期基本計画における施策体系の考え方で、6政策と36施策は固定されているが、36施策の中で、さらに個別施策がつく。
- ・市民アンケート等によって追加する施策、あるいは総括・評価して、新しい施策があるか、現在、組織で検討を進めている。
- ・例えば、県の流山新橋を架けようという話等は、新たに個別施策として加わる。他にも、高齢化社会に対応した新しい施策が加わる、あるいは十分行政として役割を果たしたものは終了するなど、現在、庁内の策定作業の部会で検討している。

(浅見会長)

- ・36施策には反映しないが、個別施策や細目のところで新しいものを入れていく。この会でも、提案できればいいと思うので、なるべく意見を出していただきたい。

(大沢委員)

- ・それは、後ほど時間をとって、または後日になるのか。

(浅見会長)

- ・そういう議論の場があるのか、ということ。

(加藤企画政策課長)

- ・庁内で原案を示し、皆様のご意見を伺う場を、次の次くらいに予定。

(大沢委員)

- ・例えば、運河水辺公園など、利根運河は、流山らしいまちづくりを考えていくべきではないか。運河の流域に桜の木を1000本、2000本と植えて、シンボルにしてはどうか。市民からの応募で、1本いくらかと、個人の名前もつけ、桜の木を植える。運営費、管理費、植え付け作業なども含めて、1本5000円くらいで募集したら、個人のお金で可能だ。
- ・大きな、市のためになるようなもの、例えばガーデニングの個人の庭でも、啓蒙して緑のまち流山、ということをして、10年、30年先を見据えて推進する。民間資金、民間活力を利用して、特色ある流山という都市、まちを作っていくことができる。

(浅見会長)

- ・提案だが、個別の委員のいろいろなご意見やご関心について、次回くらいまでに、文書で出していただき、事務局で整理の上、それを議論する。我々の意見を出せるようにする、ということはいかがか。

(加藤企画政策課長)

- ・会長より、ありがたいご提案をいただいた。皆さんから文書で事務局に出していただき、それをまとめたものを提示して、議論をいただくということで良いか。

(浅見会長)

- ・ワープロなどのデジタル媒体のほうが、事務局が楽だ。文書にすると大変なので、工夫して、委員に伝えていただきたい。

(山口委員)

- ・総合計画は行政計画であり、「図ります、推進します、促進します」という通常の言葉が並ぶ。
- ・流山市は、NPO等、市民がいっしょにまちを担っているという特徴を持つ

ている。

- ・役所の中の策定部会で下案を作っている、その総合的なところで、市民の協働が入ると、新しい流山のプランの方向として、良いのではないか。
- ・この審議会でも話し合う時間があると思うが、その頃には行政の案ができていて、それはもう入れられない、となりかねないので、今のうちに提案させていただく。

(浅見会長)

- ・市民のための市なので、市民にも参画いただいたほうが良い。主体的に、やってくれるだろうということではないように。

(久保委員)

- ・参考資料の3の施策体系の考え方で、176の個別施策から、詳細施策、細目、730の事務事業とある。これは、一例の形で、176の個別施策はどこにも紙には無いということか。

(加藤企画政策課長)

- ・176施策というのは、現在の基本計画の中の施策で、730事務事業というのも、現在の計画。後期の計画においては、170や180になる場合もあり、事務事業もそれに付随して増減が考えられる。

(久保委員)

- ・ここに示しているのは例であるということか。

(加藤企画政策課長)

- ・そのとおり。

(久保委員)

- ・枝が出ていないところがこの審議会の課題か。

(加藤企画政策課長)

- ・総合計画を以前に配付しており、個別施策が出ている。36施策のシートもあり、それで施策が出ているものもある。

(増岡委員)

- ・人口推計の外国人登録者をどのように推計されたのか。外国人登録で、日本

の国籍を取得して減っていくのか。国際都市を目指しているのであれば増えていくのではないか。

(加藤企画政策課長)

- ・人口推計で、外国人の登録者が1500人くらいいる。推計は、登録や登録の抹消の動きを元に将来的なものを推計したもの。

(増岡委員)

- ・登録を抹消したというのは、日本に帰化したのか、どういう内容か。

(加藤企画政策課長)

- ・外国人登録されて、抹消の方は流山市内から離れる場合と、何らかの理由で国籍が変わる、お亡くなりになる場合もある。それが主な抹消する原因。

(安井主査)

- ・住民基本台帳データと外国人の登録データ、それから開発人口という3つの大きな柱で人口推計している。
- ・それぞれ出発点のデータに、コーホート要因法による、出生と死亡の要因をかけて、計算したもの。外国人登録データの数値で計算し、コーホートの変化率をかけると、外国人だけが減った。他の地域では開発人口でプラスなので、人口は伸びている。

(増岡委員)

- ・平成19年の1583人の外国人登録者が32年には952名で、600人くらい減っている。近所でも韓国の方が、20年、30年くらい住み、台湾からの方もいる。

(安井主査)

- ・住民基本台帳データでは、社会増という、移動が折り込みになっているが、外国人登録人口については、転入や新たな登録分が入っていないので、出生率と年齢による死亡率で、自然に計算すると、今いる方の年齢層から、だんだん減るといった結果になった。

(浅見会長)

- ・外国人の入ってくる方の位置づけをしていない。今いる方で、若干増えるかもしれないが死亡などの分しかみていない。

(染谷部長)

- ・そういうこと。

(増岡委員)

- ・そういう方程式しかないのか。

(大沢委員)

- ・平成20年はプラス10人、平成21年はマイナス132人、次の年がマイナス71人、20年と21年を比べると142人。方程式ならば、数字にぶれは無いはずだが、後の数字が推計的な数値になる。何か推計方式があるはずなので検討してもらいたい。

(浅見会長)

- ・私も人口推計をやるが、集団が小さくなれば小さくなるほど精度が悪くなるということがあり、難しい。

(加藤企画政策課長)

- ・調査をして、後ほど、ご報告する。

(大津主査)

- ・委員がおっしゃるように、新たに外国人を増やす政策を折り込んでいる統計ではない。過去の登録、抹消、亡くなられる方の統計的なデータに、今いる外国人登録者の方の数値をかけているだけなので、自然と減っていく。
- ・若い方が入ってこなければ高齢化のため、集団としては小さくなるので、登録する方が入っていない推計方法というわけではない。

(浅見会長)

- ・おそらく、開発人口の新しく住まわれる中に外国人も入ってくる。

(大津主査)

- ・単純に今の外国人の方だけという推計で、これから新たに増える人口の中には外国人も増えてくると思うが、それを推計するデータの方向性がないので、推計ができなかった。

(大沢委員)

- ・グローバルな時代で、ある程度国際的なつきあいも必要。外国人にとっても、日本人にとっても、住み良い流山というのは、他のデータでも出ているので、誤解を招かない人口推計を出してほしい。

(浅見会長)

- ・国際化を謳ううちの大学もそうだが、増えると思う。

(奥田委員)

- ・タウンミーティングと女性タウンミーティングは、来年1月と2月にそれぞれ開催とあり、地区タウンミーティングは、中学校区8地区の開催なのかと想像するが、女性タウンミーティングは、どのような形・内容、進め方になるのか。

(加藤企画政策課長)

- ・地区別タウンミーティングは、1月に市内4か所で開催予定。女性タウンミーティングは、市内2か所で開催予定。
- ・女性タウンミーティングでは、基本計画の策定の現状と課題、基本方針を示して、女性の視点からのご意見をいただくことが主な目的。特に付随して、基本計画の中にある男女共同参画社会についても、ご意見を伺いたい。

(奥田委員)

- ・市民意識調査に、男女の地位は平等になっているか、という項目がある。家庭の中では平等が44.9%、その他も入れると半分以上。職場や学校では、低い。わからないという回答が39%あり、この結果がわからない。
- ・こういう結果をタウンミーティングの資料としたら、具体的なご意見を伺ういいチャンスではないか。
- ・残念ながら、中学生の方にはそういった関連の設問が無い。中学校の場についての設問が無いというのは残念だ。今後は、市民意識調査と連動するような設問を加えてほしい。

(浅見会長)

- ・中学生アンケートで、一番関心がある中学教育に関する設問がないので、その関心事の意見を引き出すようにしていただきたい。
- ・タウンミーティングに、この調査資料を活かしてほしい。

(浅見会長)

- ・タウンミーティングの日程がわかったら教えてほしいとのこと。

(内山委員)

- ・基本的に市の職員は少なすぎる、もっと若返らなければいけない。
- ・必要なキーワードは、流山市の脱炭素社会に貢献するようなことを強烈にアピールすること。
- ・柏やつくばなどの外国人の若手の研究者たちの住まいとして、流山市を提供できることが、つくばエクスプレスができたメリットだ。
- ・疲弊している流鉄をどうするか。高齢者が平成30年には5万人になるという推計なので、高齢者のモビリティを確保するために、流山線を活用するという方策はないものか。後期の見直しには必要だ。
- ・レベルの高い高校をつくることも、考えたい。

(浅見会長)

[午前意見のまとめ]

- ・財政の問題。推計の精度について、よく考える必要がある。
- ・自治会や企業、自由意見なども計画に取り入れ、新しいアイデアに対処する。新発想を積極的に入れるため、委員の方々からアイデアを事務局に寄せていく。
- ・市民が協働してやるという発想が重要なので入れる。
- ・タウンミーティングなどでの意識調査の活かし方や調査について。
- ・個別に、内山先生のご意見と運河の公園について。流鉄の話は、かなり戦略的な話だ。
- ・策定の仕方、手続き等については、大体良さそうである。意見を踏まえて策定に関する基本方針に沿って策定作業を進めていただいている。

(加藤企画政策課長)

- ・3階の庁議室にて食事。1時から再開。

【昼食休憩】

(加藤企画政策課長)

[前期基本計画の評価・総括の説明]

資料5 前期基本計画36 施策評価・総括表

資料6 前期基本計画6 政策評価・総括表

(増岡委員)

- ・交通安全に関して市内は安全だと感じる市民が、平成19年45.9%。
- ・6号線では、夜、自転車の10台のうち8台ぐらいまでは電灯を点けていない。暗くて危険なので歩道を走る。以前、警察にも言ったが、柏ではたばこを路上に捨てる罰金制というものがある。学校などでもマナー教育が必要だ。

(村瀬委員)

- ・今、人口が増えているのは、都市に魅力があるためで、つくばエクスプレスの開発だけで増えた訳ではない。いかがか。
- ・まちづくりの点からみると、流山市の施策は合っているのかという疑問がある。全国レベル、千葉県、柏市の人口推計がどうなっているのか。
- ・他の市や県よりもバランスの良いまちになると説明していただきたい。
- ・開発というと、おおたかの森のマンションがメインだが、マンションができると、近くに住むお年寄りの方が多く入る。便利でバリアフリー、セキュリティが良いというので、市内からの住み替えがかなりあるのではないか。その点が人口推計の中に考慮されているのか。

[午後から出席の担当部長の紹介](加藤企画政策課長)

都市整備部長、市民生活部長、学校教育部長、子ども家庭部長、産業振興部長兼の農業委員会の事務局長、企画財政部長

(加藤企画政策課長)

- ・ご指摘のとおり、人口推計だけでは他市との比較は出来ない。柏市とは同じような傾向にある。現在、どこの自治体でも、少子高齢化の時代で、全国的に人口が減少に転じている。本市、柏市、他市でも、まだ人口が微増中だが、本市は、平成34年をピークに減ると推計する。
- ・開発人口の中で市内からの移転数について、正確に調査したデータはない。おおたかの森の大きなマンションができた時の非公式調査では、3割ぐらいが市内からの移転いわゆる転居と聞いた。
- ・まちづくりの基本的な方針では、つくばエクスプレスの沿線で都市間競争が厳しい中、流山市としては、マーケティング課をつくり、グリーンチェーン戦略、子育てにやさしいまちづくりなどの施策を進めている。

(大津主査)

- ・最近おおたかの森にできているマンションのデータを調べると、3割程度が

市内から移り住んでいる。それを全部、開発人口に適用していいものかという検討があり、結局、市内の人口の移動は、既存の移動率でやっている。新しいマンションに3割が移動しているということは、特に考慮していない。

(浅見会長)

- ・若干、過大推計になっている可能性もある。

(大津主査)

- ・市内の移動についてか。

(浅見会長)

- ・人口推計が、仮に3割が市内からの移転とすると、その分人口が減る。

(大津主査)

- ・そういう結果になる。ただし、市内から移り住んだ所が全て空き家になるわけではなく、そこに新たな人口が張りつくことも考えられるので、それほど過大ではない。

(木下委員)

- ・施策、政策の評価や成果指標が妥当なものかどうか。成果指標は、量的に把握しやすいものが中心で、成果指標と市民満足度の相関関係から成果指標の設定の妥当性についても分析を行っているところがあるが、この結果をお聞きしたい。
- ・資料5の満足度重要度マトリックスと、すべての施策を示したものについて。例えば、満足度も重要度も低い、左の下側にある、子育て支援や障害者への配慮、商店街の魅力などは、今後も重視していかなければいけない施策だが、考慮されるしくみになっているのか。
- ・市民の満足度、行政の達成度のいずれも低い評価の施策について。施策の内容ややり方が問題か、財政的な裏づけや予算の問題なのか、読み取れない。

(加藤企画政策課長)

- ・成果指標は、概ね妥当であると思う。
- ・重点施策は、年度ごとに予算的な配分をより加味している。今回の市民意識調査の中の、3つまで重要と思われるものを選んでください、という設問の回答割合によるもので、相対評価である。左下が、やらなくていいというものではなく、障害者への配慮など福祉的な面は、当然進めていくべきもの。

(浅見会長)

- ・最後の質問の、重要度や満足度が低かった原因は予算の問題なのかどうか、重要な点なのでいかがか。

(加藤企画政策課長)

- ・行政評価システムを導入し、毎年度、行政評価を行い、数値が達成できなかったものについては、原因をそれぞれの分野で評価している。その施策が馴染まなかったり、予算配分に問題があったりした場合もあるかもしれないが、ご指摘のとおり、わかりにくい。毎年の行政評価システムにおいて、その内容は、分析している。

(浅見会長)

- ・資料5は、公表される資料なのか。

(加藤企画政策課長)

- ・資料5、6とも、現在は未完成状態だが、完成後は、公表していきたい。

(浅見会長)

- ・予算の問題については、我々に情報として提供されるのか。行政の評価としては、予算のせいかどうか、反省されているわけだが、今後公表するものに入れるのか、どのように考えているのか。

(加藤企画政策課長)

- ・施策主管課長が中心になり、その内容と分析、いわゆる費用対効果などの分析をしているが、それを一般的に表した資料はなく、資料2の管理シートを公表している。資料2の管理シートは、今日は1枚だけだが、それが、各事業にあり、毎年やっている。

(染谷企画財政部長)

- ・資料5、6は、行政評価システムによる、あくまで前期基本計画10年間の基本計画の評価と総括である。これをまとめる前に、行政評価のシートがあり、36本の施策についての各年度の施策を振り返り、PDS、Plan-Do-Seeを行って評価した。その評価の中で、なぜこういう結果なのか、なぜ成果指標が上がらないのか、あげるためにはどうしたらいいのか、という振り返りを行っている。

- ・ 730事業すべての評価も毎年行っている。1年間を振り返り、どういう評価を市民から得ているのか、その要因は何か、来年は予算の投入か、人の投入か、やり方の変更か、市民や民間の皆様に行っていただくのか、という評価の資料があり、その積み上げの結果である。

(久保委員)

- ・ 情報公開の中で、施策評価等についてはどの程度開示されるのか。市民の開示請求による、原則開示ということか。申請があれば開示するというスタンスか。

(染谷企画財政部長)

- ・ 資料5、資料6、そして毎年の行政評価システムの36本の施策に関わる行政評価の結果、730事務事業の評価の結果、これらは従前からすべて公表している。

(久保委員)

- ・ 公表の方法は、請求があつて公表するのか。

(染谷企画財政部長)

- ・ ホームページで全て公表している。

(久保委員)

- ・ 36施策を総括しているところで、審議会がいくつあるのか。審議会で議論されたものが、この場に上がってきて計画に反映されることになると思うが、個別の審議会で、十分議論されているのか、見えにくい。

(遠藤行政改革推進課長)

- ・ 審議会の数は、44ある。
- ・ 審議会の意見の反映については、一例をあげると、行財政改革審議会では、平成18年度から行政評価に対する外部評価をして、成果指標は毎年見直し、社会環境の変化等によって、すぐわかない成果指標については、毎年、担当課を含めて意見を交換し直している。その他の審議会の意見も、極力取り入れていく考えである。

(新保委員)

- ・ 資料5で、成果指標として、公園面積と緑被率と市内の緑に満足している市

民の割合があるが、これは施策名の「生態系に配慮した公園・緑地・水辺等空間の整備」には、つながらないのではないかと。森林は何%維持とか、水田は何ha維持とか、畑はどうしようとか、という数字があったほうが良い。

- ・公園面積は、都市計画法で決まっていることで、街区公園も含めて生態系に配慮した公園はあまりない。河川敷の緑地もこの中に15ha入っているのか。緑被率については、どこの市町村でもやっているが、いろいろなものが入るので対策を取れないのではないかと。
- ・緑に満足している市民については、緑が何かかわからない。市民の森は82haくらいだ。市の面積は3528haくらいで、森が302haくらい、新川耕地が180haくらい、畑が240haくらい。そういう緑を見て、緑がある、という気がしているのではないかと。

(山口委員)

- ・資料5の男女共同参画の経年変化では、男女が平等に扱われていると思う市民の割合が37.7%で、目標が36%となっており、目標を超えたから施策はもういいととられそうだと。今年の市民意識調査では、平等は18.5%であり、使う資料が違うと思うので、次の10年のときには、データを差し替えていただきたい。

(加藤企画政策課長)

- ・指標については、今後、振り返り、検討したい。

(大沢委員)

- ・資料の5で見ると、目標額と実績額があり、概ねは非常にいい形だ。
- ・流山おおたかの森駅を中心とする計画に沿った活用がされている地域の面積が、目標に対して平成17、18、19年度とかなり下回っている。これはどう評価していくのか。
- ・既成市街地における開発面積もかなり下がっており、都市災害への予防では、市内の緑に満足している市民の割合(「消防力の基準に対する充足率」に訂正)が、平成18、19年度が急激に下がっている。原因などのリサーチはどうか。
- ・委員会も含めた審議会の数44だが、5、6年前までは、86あり、それが整理され縮小したのか。

(染谷企画財政部長)

- ・条例によって設置されている審議会、名称は変わる場合もあるが、審議会等

の数のことで、委員がおっしゃるように、統廃合を重ねて、現在44ある。

(阿曾都市整備部長)

- ・おたかの森の駅周辺の土地活用の件。工事は進んでいるが、まだ使用収益が開始されていない部分が多く残っている。先般、駅周辺の地権者約200名に集まっていたき、お考えや計画を伺った。市が間に入り、土地利用に合った商業施設や業務施設、住宅系の土地活用等について、紹介制度を作ろうとしている。
- ・既成市街地の関係では、開発行為が中心になる。良好な基盤整備は公共用地率で18%を上回ると、住宅地としても良い傾向とみる。流山市の場合、過去の統計実績では、既に20%を超えていた。さらに上回るため、環境や景観を優れたものにするよう、開発指導要綱の中でも示し、対応したい。

(水代企画政策課長補佐)

- ・資料5の21頁のグラフの表題は、「市内の緑に満足している市民の割合」は、「消防力の基準に対する充足率」に、「市民一人当たりの公園面積」は、「救急救命士の充足率」に訂正。

(島田委員)

- ・市民意識調査で見ると、住み続けたい理由は、自然環境が豊かで交通の便が良いことだ。しかし、つくばエクスプレス関係で開発が進み、交通の便がよくなった半面、自然環境が豊かでなくなったと感じる結果が出ており、開発と保全の調和を市民に納得していただくことが必要だ。

(浅見会長)

- ・評価・総括を後期基本計画にどう生かしていくか、何かご意見を。

(石井委員)

- ・6つの政策それぞれにいろいろな部署の方が分析に入られていて、切り口として市民に対してわかりやすくまとめている。
- ・アンケートの結果とまとめた資料6をみると、概ね成果としても良い。業績としても悪くない。個々の話は別として、全体としては良い。
- ・資料5と資料6に、すべての施策について載っている。しかし、大きな流れがよくわからない。一生懸命はわかるが、おそらく市民には伝わらず、意見を言ってください、といっても出てこない。例えば、企業の株主通信では、A4の3~4枚の資料があるので、このくらいのボリュームで、ぜひ、まと

めを作って公表してください。

(染谷企画財政部長)

- ・今までは単に数字を並べるような評価の形だった。今回、36本の施策別、6つの政策別に、市民の満足度や評価を基に、分析して、何が必要かということで、評価や総括に至った。次は、市民にわかりやすくするために、A4で何枚かにまとめて、提示したい。

(浅見会長)

- ・評価として、指標とか細かい点ではいろいろ問題はあるが、大枠としてはこういった形ということ。

(内山委員)

- ・市民の満足度を指標として使うのは結構だが、大手術して体質改善したいが、痛みを伴い市民満足度だけではやりたくない場合もあるので、いわゆる物理的な指標も合わせてつけていただきたい。
- ・例えば、この総合計画審議会は、地方自治法に基づいているので、都市計画法による都市計画マスタープランとは違い、市街化区域以外の部分も入る。公園でも、都市計画法で決められる公園だけでなく、市街化調整区域に公園や運動場みたいなものあって、それも含めたら一人当たりの公園面積が増える。というふうに、もう少し指標を、物理的かつ具体的に眺めて、市民の満足度と並列して書くべきではないかと思う。

(大沢委員)

- ・内容が膨大であるので、10年間の内容を数枚にまとめるというが、無理はしないで審議会のほうの意見を聞きながら、市民の方にこれだけはわかってほしい、という形で基本的なことに絞って、将来の計画をダイジェストで示していただきたい。

(新保委員)

- ・資料5の1ページ。例えば、所管課については、生態系に配慮した空間をつくるとしたら、みどりの課の他に、農政課と環境政策課と河川課と街路樹の道路課ぐらいを横並びに入れないといけない。施策名も、空間の整備だけでなく、保全と再生というのを入れるべきだ。基本的に課レベルではだめだ。

(浅見会長)

- ・早い話が縦割りで無いようにということ。

(加藤企画政策課長)

- ・いただいた貴重なご意見により、基本的には本編の中に評価と総括を入れていきたい。成果品の作り方も、審議会の皆さんから意見を頂きたい。また、所管課の構成についても検討したい。

(染谷企画財政部長)

- ・例えば、資料6の3ページの都市基盤の整備について。10年間の施策を振り返って、都市整備部、都市計画部、土木部、水道局、企画財政部の部長が持ち寄り、それぞれの「課題と対応」を一对として書いた。その下に、平成22年度から始まる後期基本計画の中で、それらの課題と対応を含めて、今後どのように重点的な政策として位置づけていくかというのが、「後期の重点施策」である。
- ・都市基盤の整備の場合、この部長達は、今後も地域に合った良好な市街地整備や、生態系に配慮した公園、環境に配慮した道路、公共交通機関の整備・充実の4施策を重点的に取り組む必要があると結論づけた。ヒト・カネ・モノを重点的にということも大いに含まれる。こういう各部長達の決定に対する皆さんのご意見をいただきたい。
- ・基本構想の中に含まれていることであれば、今日の評価・総括に対するように、皆さんの具体的な意見、要望をたまわりたい。

(加藤企画政策課長)

- ・部内で重点施策を検討中であり、基本的には、今、部長が説明したとおり。具体的な内容は、次回の審議会でお出しする予定だが、今日、皆さんから、ご意見やご提案があれば伺いたい。

(浅見会長)

- ・本日の第4の議論として、資料6の重点施策がこれでいいのか、見ていただきたい。都市基盤の整備での重点施策は、市街地整備、生態系に配慮した公園・緑地・水辺等空間の整備、道路整備、公共交通機関の整備。何を切っているかをみると、個性ある公共空間・歴史環境の形成と保全、下水道整備、河川・排水路の整備、水道事業。まったくやらないというわけではなく、重点はこれらよりは先のものになるということ。

(中山委員)

- ・これからの重点施策を考えるときに、さらに魅力あるまちにするためには、世田谷に負けないくらいのまちにすることだ。市の資源として、セントラルパークの駅前に1万㎡の土地がある。若い人たちが住みやすいよう、駅前に子育て支援センター、つくばエクスプレスが始発から終電まで支援するような施設を作り、少子高齢化に真正面から取り組む。

(浅見会長)

- ・4のほうにも関係すること。

(大沢委員)

- ・この資料6は、前期基本計画の評価・総括であるので、後期の重点施策については、ここで挙げるのではなく、別の資料として、この審議会や前期の反省点、総括的なものを踏まえて、決めるのが筋道ではないか。

(染谷企画財政部長)

- ・委員のおっしゃったプロセスにまったく異議はない。前期の基本計画の総括と振り返りを行い、課題と対応を考え、そして、今後はこの施策が重要だと考えるということ、今日、示させていただいた。今後、委員がおっしゃるように、皆さんの意見を十分に賜り、後期基本計画の重点施策を再度練り直し、決定していこうと考えているので、プロセスにはあまり差は無い。

(浅見会長)

- ・これは部長さんのご意見であり、我々審議会の意見案ではないので、あくまでたたき台としての資料ということ。

(中山委員)

- ・それならば、前文の説明が必要である。

(加藤企画政策課長)

- ・今後、重点施策は、今まで評価してきた6つの政策単位、市長のマニフェスト、市民意識などを加えて、主管課長、関係課長で構成する部会においていろいろ検討する。皆さんにお配りした参考資料1が重点施策選択シートで、多面的に加点をし、客観的なデータとして整理をして、部内で調整した上で、この次の総合計画審議会に案としてお示ししたい。

(浅見会長)

- ・今日のご意見は、その作業をする上での参考にしたいということ。どの分野でも、具体的に意見をお願いしたい。

(石井委員)

- ・TXのおかげで交通の便がよくなったというご意見が多いのだから、資料6のよりむしろ、アンケートでも多かった緑の保全や公園を増やすという資料6のを重点的にやる必要がある。

(久保委員)

- ・資料6の18頁のの地域で支える福祉のまちづくりという項目が右側のページの総括にも課題と対応にも出てこないの、考えていく必要がある。

(沼沢子ども家庭部長)

- ・今の委員のご意見のが総括の中に無い点は、もう一度検討したい。

(内山委員)

- ・全体として、TXができたことで、まち並みが揃い、遅れているところや今まで見えなかった、変なところがわかってきたこと。前期中に、景観計画や景観条例を流山市でお作りなしたこと。そこらへんにメリハリがあるので、そういうことを意識しながら、後期の総合計画を作ったら良い。
- ・重点施策に、農用地利用促進事業の推進及び体験農園や市民農園の充実を図り、遊休農地の有効活用を図る必要があるとあるが、実現するとはとても思えない。遊休地は増えていて、それを補って余りある市民農園や体験農園は、まずできないと考えるのが普通だ。そんなことはないと言われればそれでいい。遊休農園が活用できないとわかっていながら書くよりも、遊休農園は潰して、全部樹を生やして緑を増やすという新しい発想で考えたほうが良いのではないかと。

(池田産業振興部長)

- ・農業振興施策を推進する意味から、農業として復活できないような部分については、木を植えて里山というような活用もある。我々としては、考えられる手段を講じて、農地の有効な活用を図っていきたい。現在も推進中の、担い手の育成や後継者の育成などを活用しながら、少しでも農地を確保していきたい。そういった意味で、ご理解いただきたい。

(内山委員)

- ・虫食い状に遊休地ができていますので、それを行政指導で、うまく交換分合して遊休地を固めるなどの知恵を絞るべきである。あまりできそうもないことを書くことは、私としては反対だ。農業振興を止めることを言っているわけではない。これから、中国にお米を輸出できる可能性や農産物をＵＣへ初めて輸出できる可能性を否定するわけではない。何か、もうちょっと知恵を使って、書いていただきたい。

(浅見会長)

- ・今後、財政が厳しい中でやるとなると、ある程度大手術的なことは必要だ。それをどうするかを折り込んで、市が何で勝負していくかという魅力づくりと合わせて考えることも必要だ。

(大沢委員)

- ・10年20年先、流山のまちづくり、全体のまちづくりをどう進めていくのかということで、今は理解が得られなくても、かなり先を見て、そして将来の大きなプラン、市としてのまちづくり、行政というものを一方では求められている。その辺を我々は忘れてはならない。
- ・流山が健康都市宣言をしているが、その辺のところは、あまり具体的に出てきていない。命と健康を守ることは、これは流山市だけでできる問題ではないが、良い医療機関や先生、救急医療体制への対応を計画に入れなければならないと思う。

(沼沢子ども家庭部長)

- ・健康都市宣言は、今年の1月に制定した。今、体の健康については、ヘルスアップ事業を展開している。今後の事業については、別に健康都市プログラムというのを策定している。後期の重点施策としては、資料6の18頁の健康で明るい暮らしづくりについての記述で、22年度以降の施策に大きく反映されてくる。

(浅見会長)

- ・流山市の長期戦略を考えるには、比較的東京、コアに近いという中で、これだけ緑がある、それを活かすと言う事が重要。単に他の都市と同じような平均的な都市を目指さないほうが、かえって良い。
- ・実際、流山が何で勝負するかわからない。これという物や特徴で流山を連想できるイメージ、キーコンセプトが欲しい。我々もアイデアを出さなければならないが、それがうまく出せると魅力的な、市民にわかりやすい計画にな

る。

- ・全体としては、達成度や満足度が低いのはなぜか、分析はされているので、それを少し活かしていけばいいのではないか。大きな流れというのはまだわかりにくいですが、その中には、総合的にまとめていく項目が入ってくる。

(加藤企画政策課長)

- ・今日は、3つの大きな議題があったが、その他ご意見等があったら、1週間後の11月20日までにFAXかメールで事務局宛に頂きたい。

(加藤企画政策課長)

[今後のスケジュールについての事務連絡]

- ・スケジュールは、場合により変更があるので、よろしくお願ひしたい。
- ・次回の審議会は、12月17日水曜日、午後1時半からの開催予定。場所は議会開会中につき、こちらの会場もしくは近隣施設の予定。
- ・最初のタウンミーティングは、1月17日土曜日、午前10時から、北部公民館、午後2時から、初石公民館で開催予定。その後、1月24日土曜日、午前10時から、南流山センター、午後2時から、東部公民館で開催予定。
- ・女性タウンミーティングは、2月5日木曜日、午前10時から、リサイクルプラザ、午後2時から、生涯学習センターで開催予定。

(染谷企画財政部長)

- ・流山の魅力、あるいは流山のアイデンティティについて。現在、流山市では子育てしやすいまち、市長、副市長は日本一と言っているくらい、子育てしやすいまちを目指して、ヒト、カネ、モノを投入している。また、グリーンチェーン戦略を進めて、「都心から一番近い森のまち」を売り出そうとしている。
- ・まだPRが足りないが、児童や子どもの数が非常に増えているので、流山が進めている施策が少しずつ浸透してきている。さらにそれを進める、次の基本計画、後期基本計画の中でどれを戦略として重点的に行っていくべきか、大きな要素となる。ぜひとも、皆様のお力添えで、より良い基本計画をつくってまいりたい。

(浅見会長)

- ・それぞれの議題で出た意見は事務局で整理し、皆様方の意見も反映していただくようお願いして、本日は、これで終わりにする。